

Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

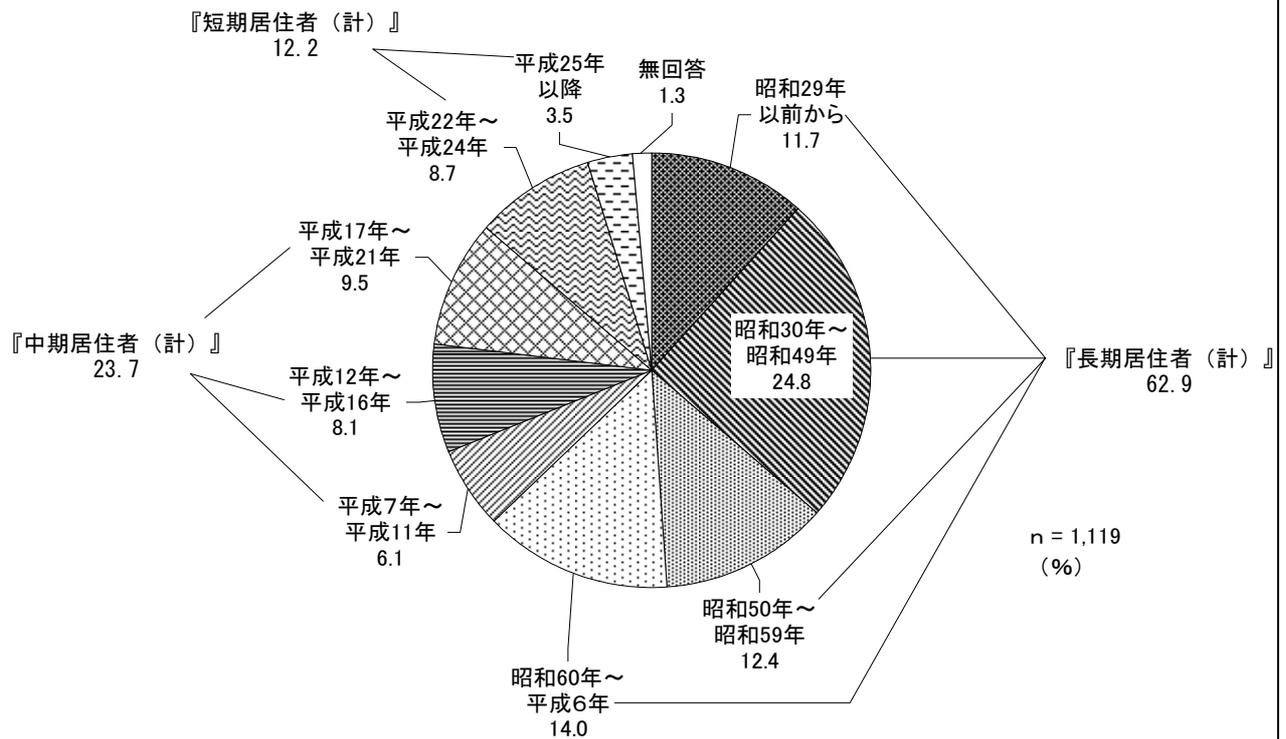
1. 定住性

(1) 居住開始時期

◇「昭和60年以前から住んでいる方」を表す『長期居住者(計)』は6割を超える

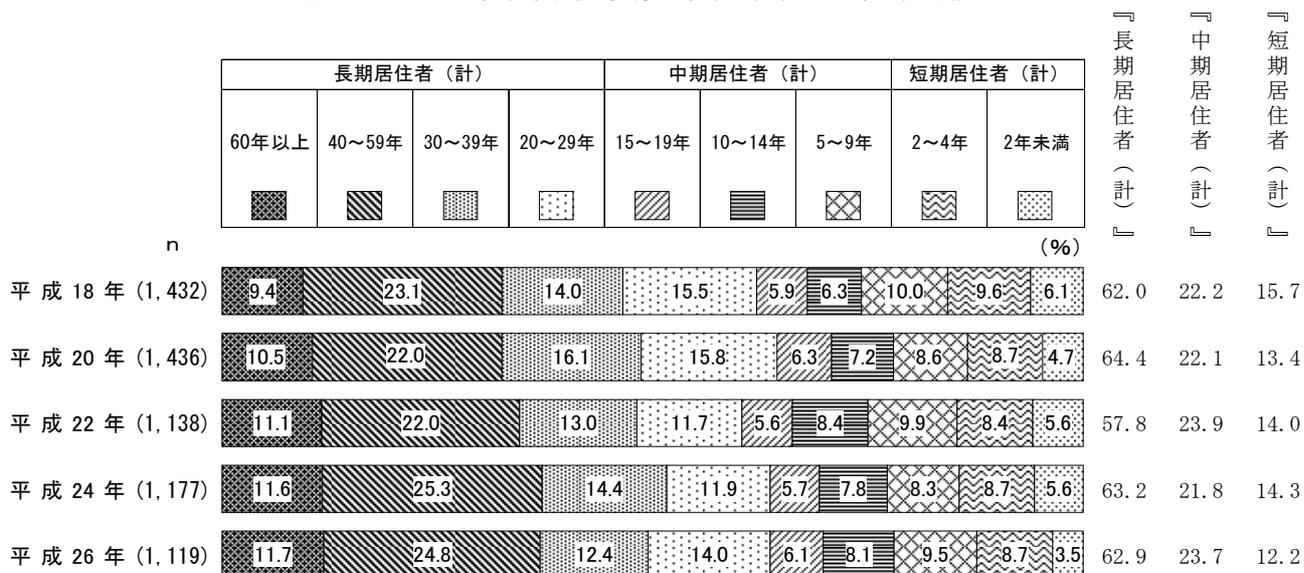
問1 あなたは、いつ頃から大田区に住んでいますか。(○は1つだけ)

図1-1-1



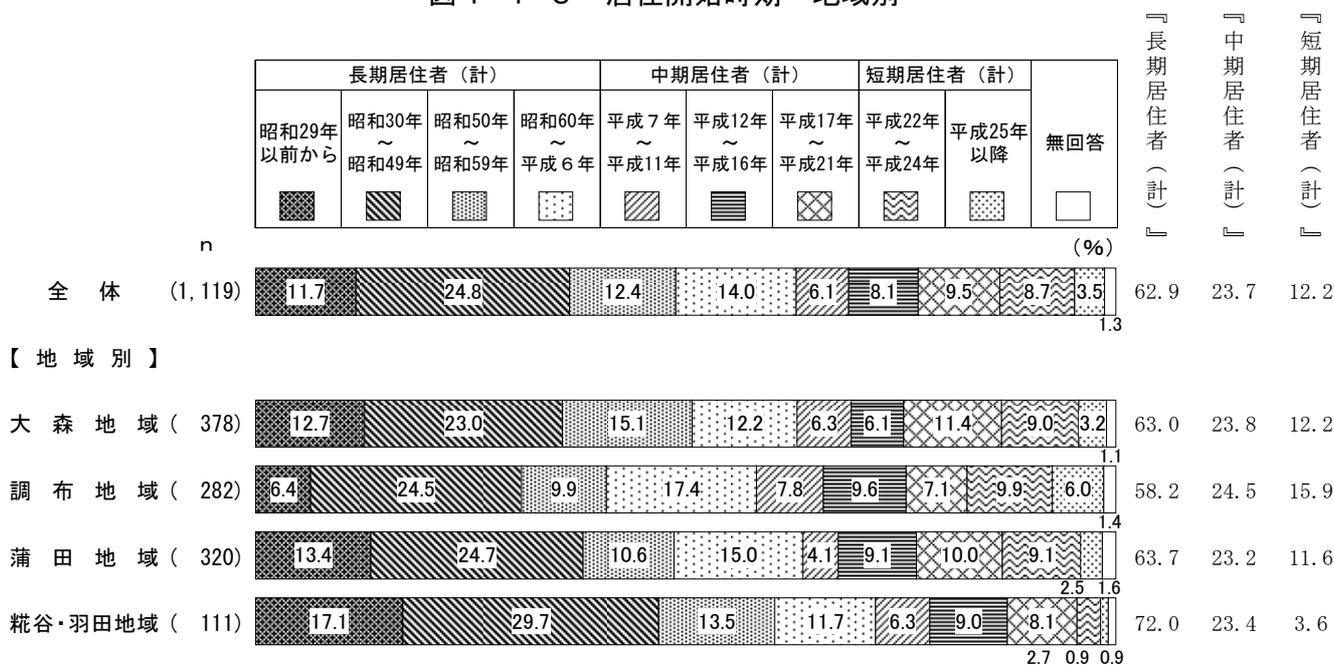
居住開始時期を聞いたところ、「昭和30年～昭和49年」(24.8%)が2割半ばで最も高く、これに「昭和29年以前から」(11.7%)、「昭和50年～昭和59年」(12.4%)、「昭和60年～平成6年」(14.0%)を合わせた『長期居住者(計)』(62.9%)は6割を超えている。また、「平成7年～平成11年」(6.1%)、「平成12年～平成16年」(8.1%)、「平成17年～平成21年」(9.5%)を合わせた『中期居住者(計)』(23.7%)は2割を超え、「平成22年～平成24年」(8.7%)と「平成25年以降」(3.5%)を合わせた『短期居住者(計)』(12.2%)は1割を超えている。(図1-1-1)

図 1-1-2 居住開始時期（居住年数）一経年比較



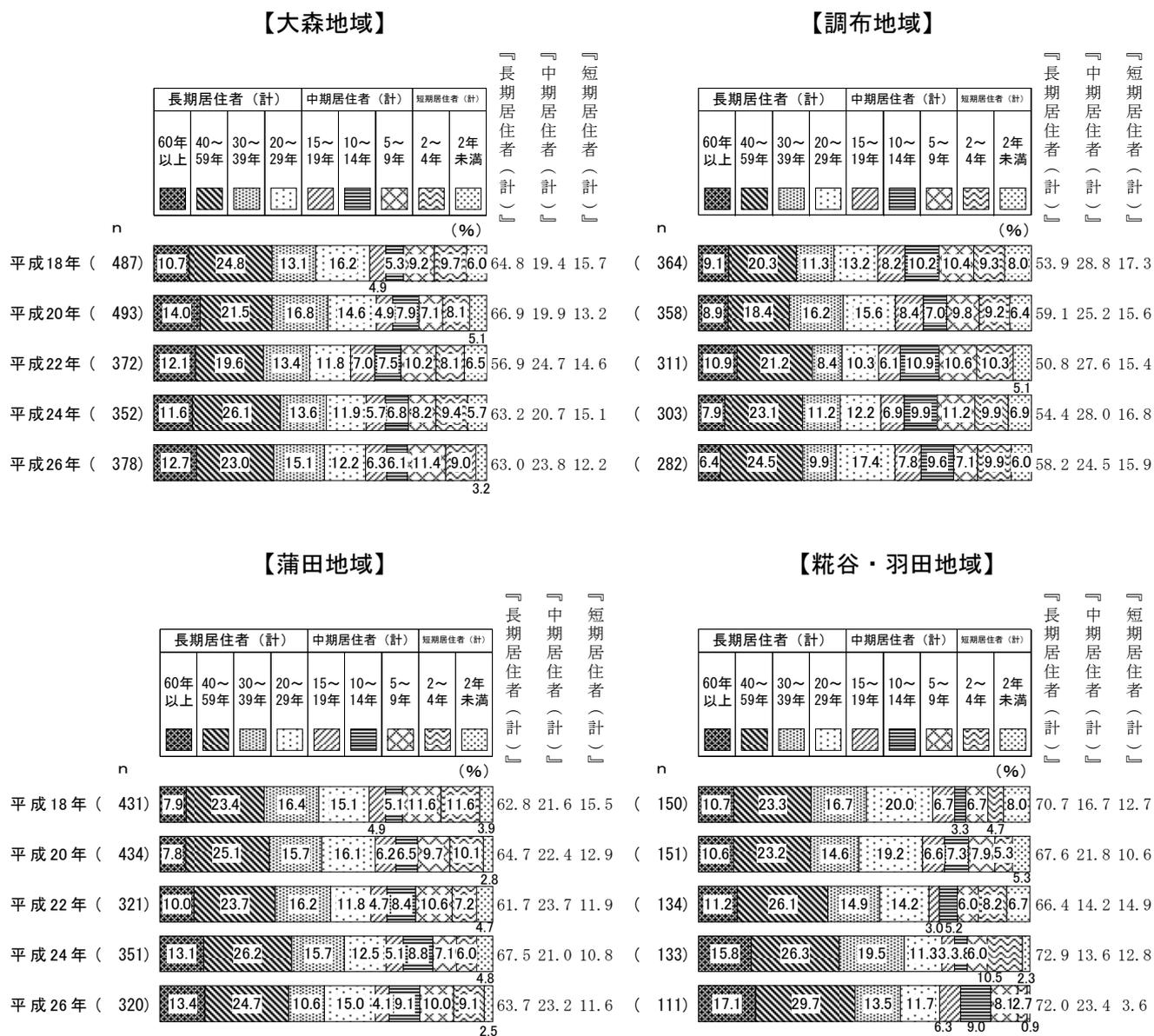
大田区への居住開始時期を居住年数に換算して経年比較をした。『長期居住者（計）』は前は5.4ポイント増加していたが、今回はほぼ横ばいとなっている。また、『中期居住者（計）』は前回より微増、『短期居住者（計）』は前回より微減となっている。（図 1-1-2）

図 1-1-3 居住開始時期一地域別



地域別でみると、『長期居住者（計）』は糀谷・羽田地域（72.0%）で7割を超え高くなっている。一方、『短期居住者（計）』は調布地域（15.9%）で1割半ばと高くなっている。（図 1-1-3）

図 1-1-4 居住開始時期—地域別（経年比較）



地域別に経年比較すると、『長期居住者 (計)』は調布地域で前回より 3.8 ポイント増加しているが、蒲田地域では前回より 3.8 ポイント減少している。また、糀谷・羽田地域では『中期居住者 (計)』が前回より 9.8 ポイント増加し、『短期居住者 (計)』が前回より 9.2 ポイント減少している。

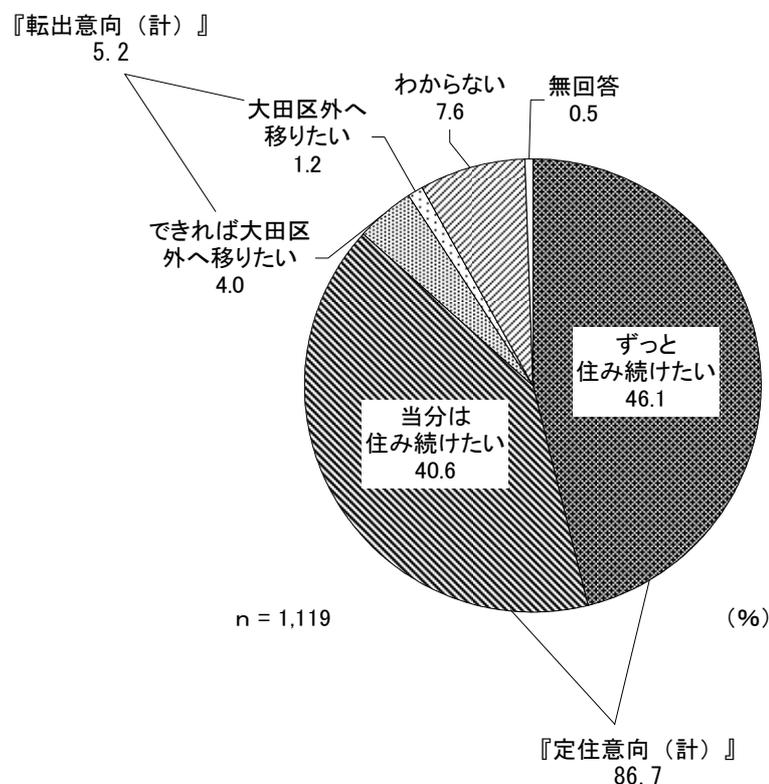
(図 1-1-4)

(2) 定住意向

◇「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた『定住意向（計）』は9割近く

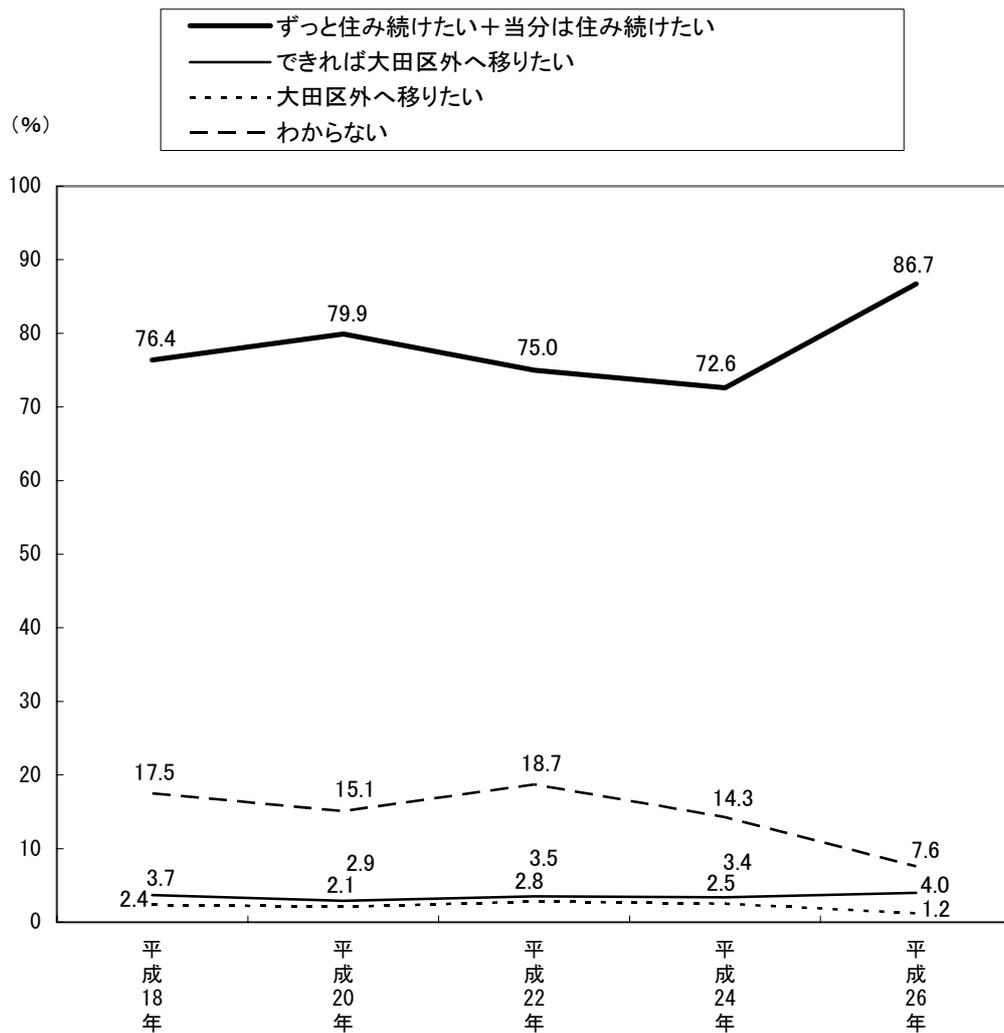
問2 これからも大田区に住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-2-1



定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(46.1%)が4割半ばで最も高く、これに「当分は住み続けたい」(40.6%)を合わせた『定住意向（計）』(86.7%)は9割近くとなっている。一方、「できれば大田区外へ移りたい」(4.0%)と「大田区外へ移りたい」(1.2%)を合わせた『転出意向（計）』(5.2%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 定住意向一経年比較



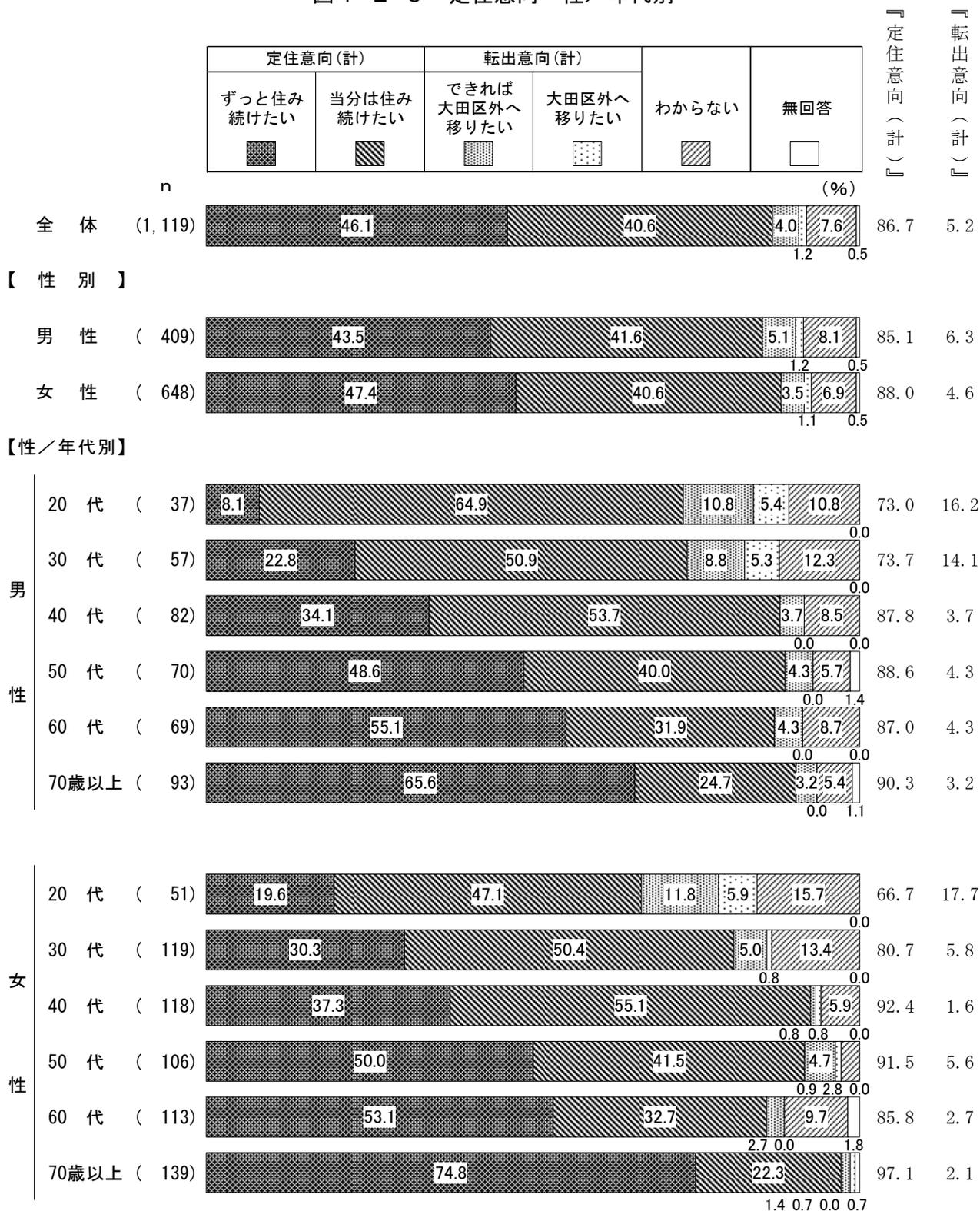
[※1]今回から選択肢を4肢[※2]から5肢へ変更したため、今回調査の「ずっと住みたい」と「当分は住みたい」を合計し、過年度の「これからも住みたい」と比較した。また、今回調査の「できれば大田区外へ移りたい」は過年度の「あまり長く住みたくない」と比較した。

[※2]前回選択肢「これからも住みたい」「あまり長く住みたくない」「大田区外へ移りたい」「わからない」

定住意向の経年比較は、過年度の調査と選択肢を変更しているため、参考までに図示する。

(図 1-2-2)

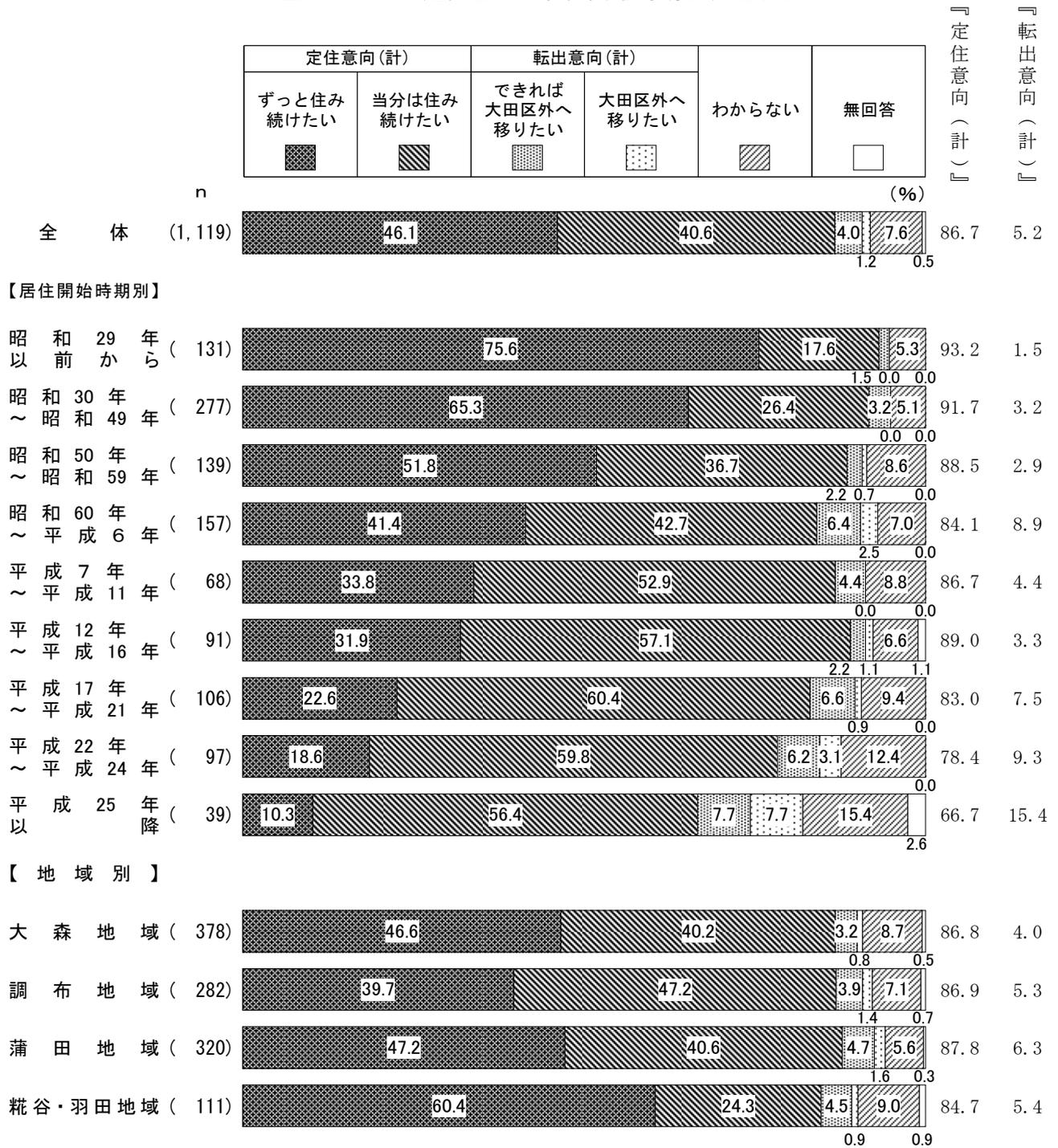
図 1-2-3 定住意向—性／年代別



性別でみると、「ずっと住み続けたい」は女性（47.4%）が男性（43.5%）より3.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（74.8%）で7割半ば、男性70歳以上（65.6%）で6割半ばと高くなっている。また、『定住意向（計）』は女性の40代（92.4%）、50代（91.5%）、70歳以上（97.1%）と男性70歳以上（90.3%）で9割台と高くなっている。一方、『転出意向（計）』は女性20代（17.7%）で2割近くと高くなっている。（図1-2-3）

図 1-2-4 定住意向—居住開始時期別、地域別

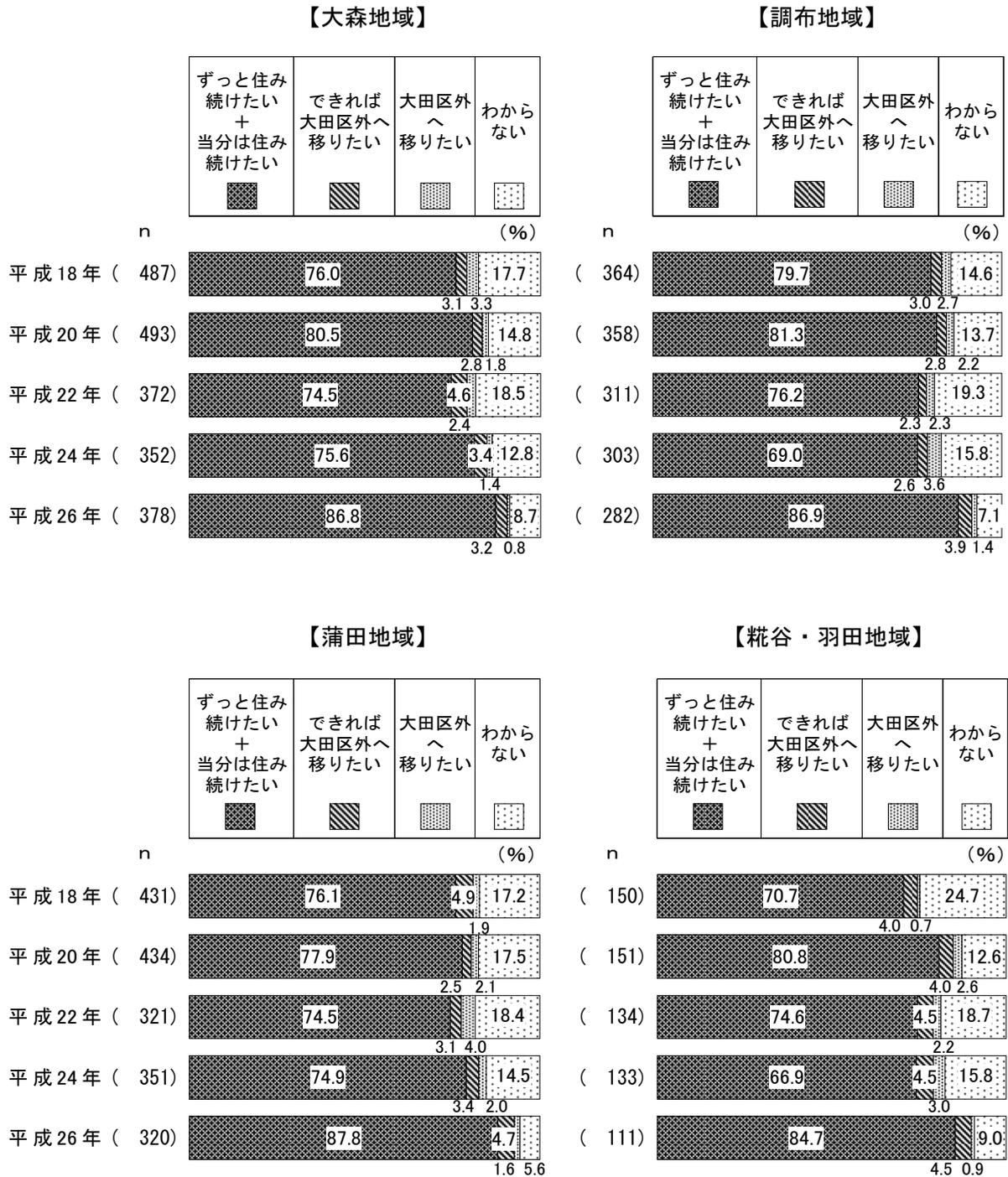


居住開始時期別で見ると、「ずっと住み続けたい」は居住年数が長くなるほど割合が高く、“昭和29年以前から（居住年数60年以上）”（75.6%）で7割半ばと高くなっている。また、『定住意向（計）』は“昭和29年以前から（居住年数60年以上）”（93.2%）と“昭和30年～昭和49年（居住年数40～59年）”（91.7%）で9割を超え高くなっている。

地域別で見ると、「ずっと住み続けたい」は糞谷・羽田地域（60.4%）で6割と高くなっている。

（図 1-2-4）

図 1-2-5 定住意向—地域別（経年比較）



【※ 1】今回から選択肢を 4 肢【※ 2】から 5 肢へ変更したため、今回調査の「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合計し、過年度の「これからも住みたい」と比較した。また、今回調査の「できれば大田区外へ移りたい」は過年度の「あまり長く住みたくない」と比較した。

【※ 2】前回選択肢「これからも住みたい」「あまり長く住みたくない」「大田区外へ移りたい」「わからない」

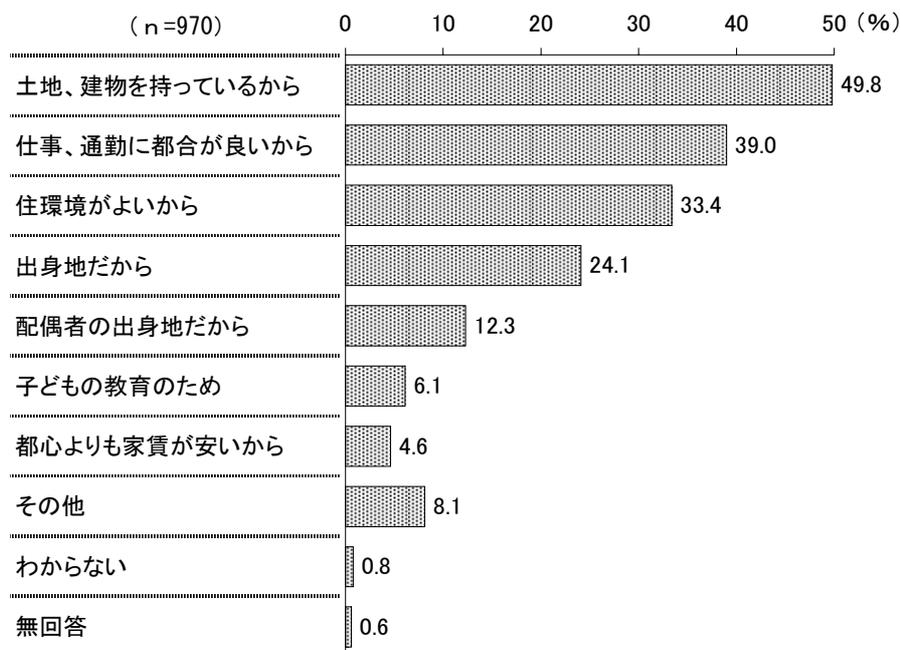
地域別の定住意向の経年比較は、過年度の調査と選択肢を変更しているため、参考までに図示する。(図 1-2-5)

(3) 住みたい理由

◇「土地、建物を持っているから」が5割

(問2で、「ずっと住みたい」「当分は住みたい」と回答した方に)
問2-1 これからも大田区に住みたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

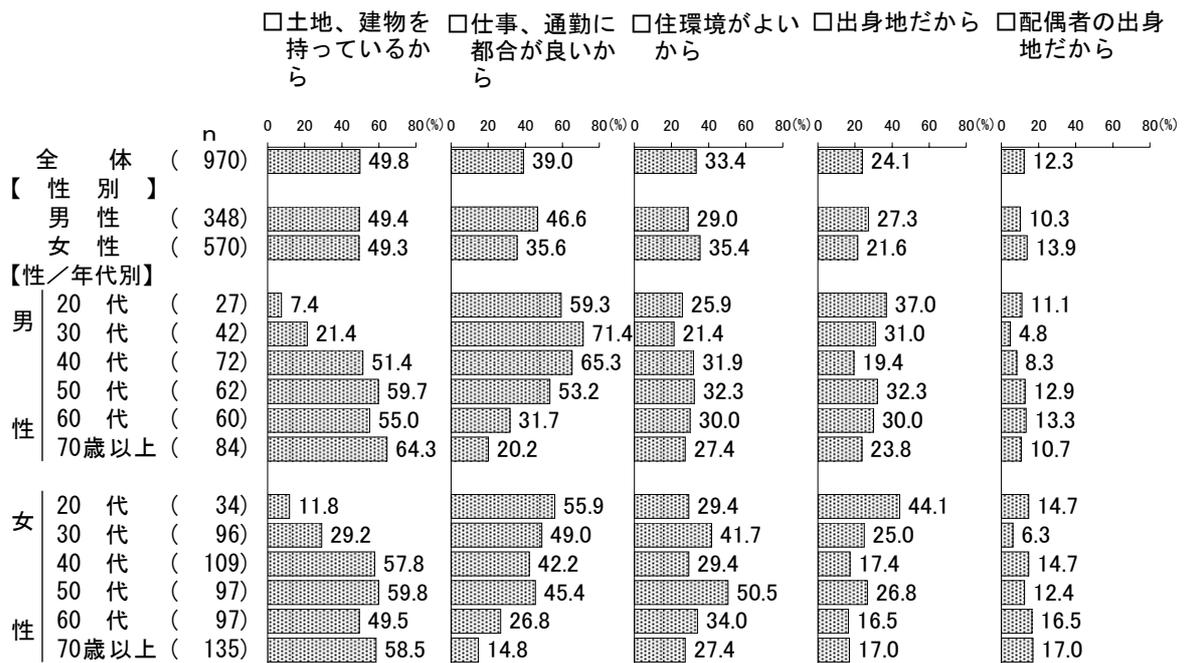
図1-3-1



これからも大田区に「ずっと住みたい」、「当分は住みたい」と答えた人(970人)に、その理由を聞いたところ、「土地、建物を持っているから」(49.8%)が5割で最も高く、次いで「仕事、通勤に都合が良いから」(39.0%)、「住環境がよいから」(33.4%)、「出身地だから」(24.1%)、「配偶者の出身地だから」(12.3%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「交通の便が良い」、「都心へアクセスしやすい」、「羽田空港が近い」、「家族・友人が住んでいる」、「医療機関が充実している」などがあげられている。(図1-3-1)

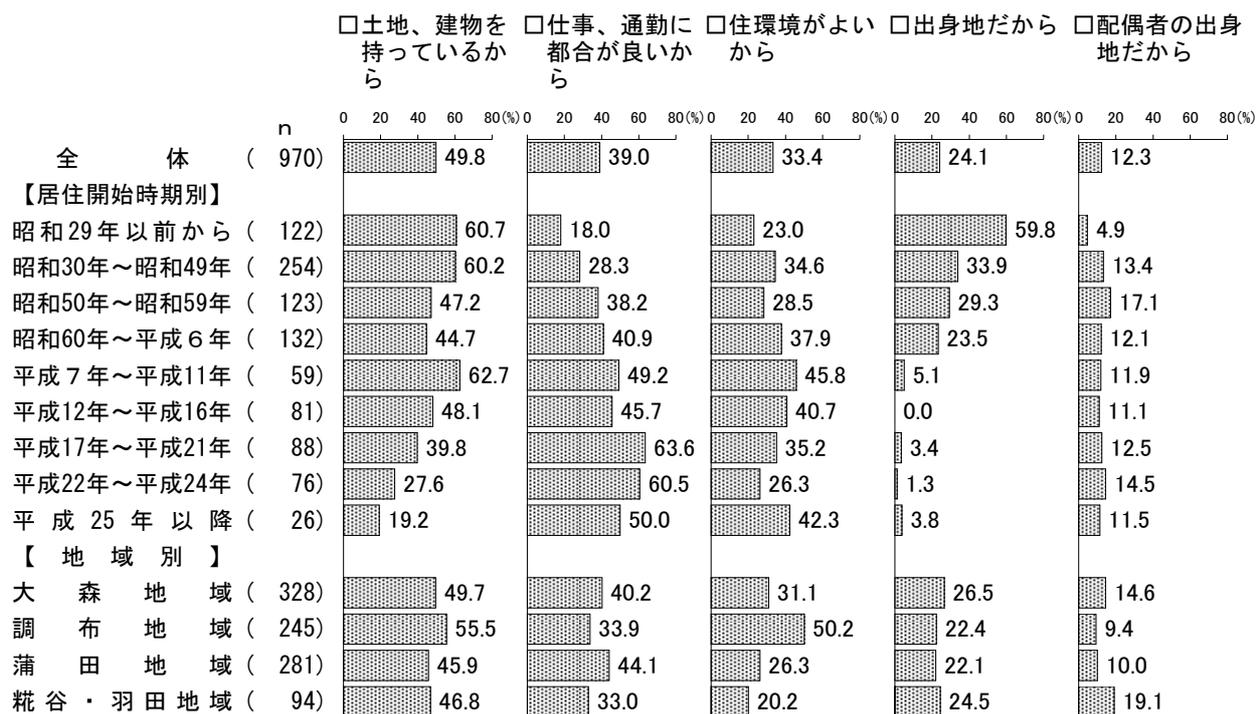
図 1-3-2 住みたい理由—性／年代別



性別で見ると、「仕事、通勤に都合が良いから」は男性（46.6%）が女性（35.6%）より11.0ポイント高くなっている。一方、「住環境がよいから」は女性（35.4%）が男性（29.0%）より6.4ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「土地、建物を持っているから」は男性70歳以上（64.3%）で6割半ばと高くなっている。また、「仕事、通勤に都合が良いから」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、男性30代（71.4%）で7割を超え、「住環境がよいから」は女性50代（50.5%）で約5割と高くなっている。（図1-3-2）

図 1-3-3 住みたい理由—居住開始時期別、地域別



居住開始時期別で見ると、「土地、建物を持っているから」は“平成7年～平成11年（居住年数15～19年）”（62.7%）で6割を超え、「仕事、通勤に都合が良いから」は“平成17年～平成21年（居住年数5～9年）”（63.6%）で6割を超え高くなっている。

地域別で見ると、「土地、建物を持っているから」は調布地域（55.5%）で5割半ば、「住環境がよいから」は調布地域（50.2%）で5割と高くなっている。（図1-3-3）

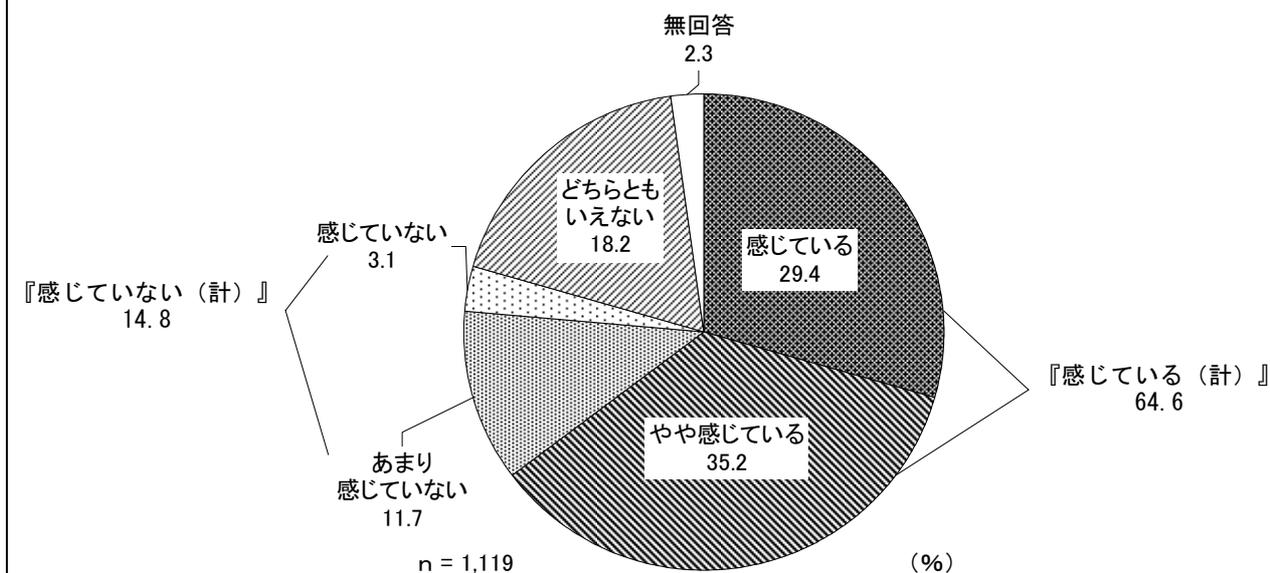
(4) 住んでいるまちが魅力的か

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は6割半ば

問3 あなた(あて名のご本人)は、住んでいるまちが魅力的であると感じていますか。

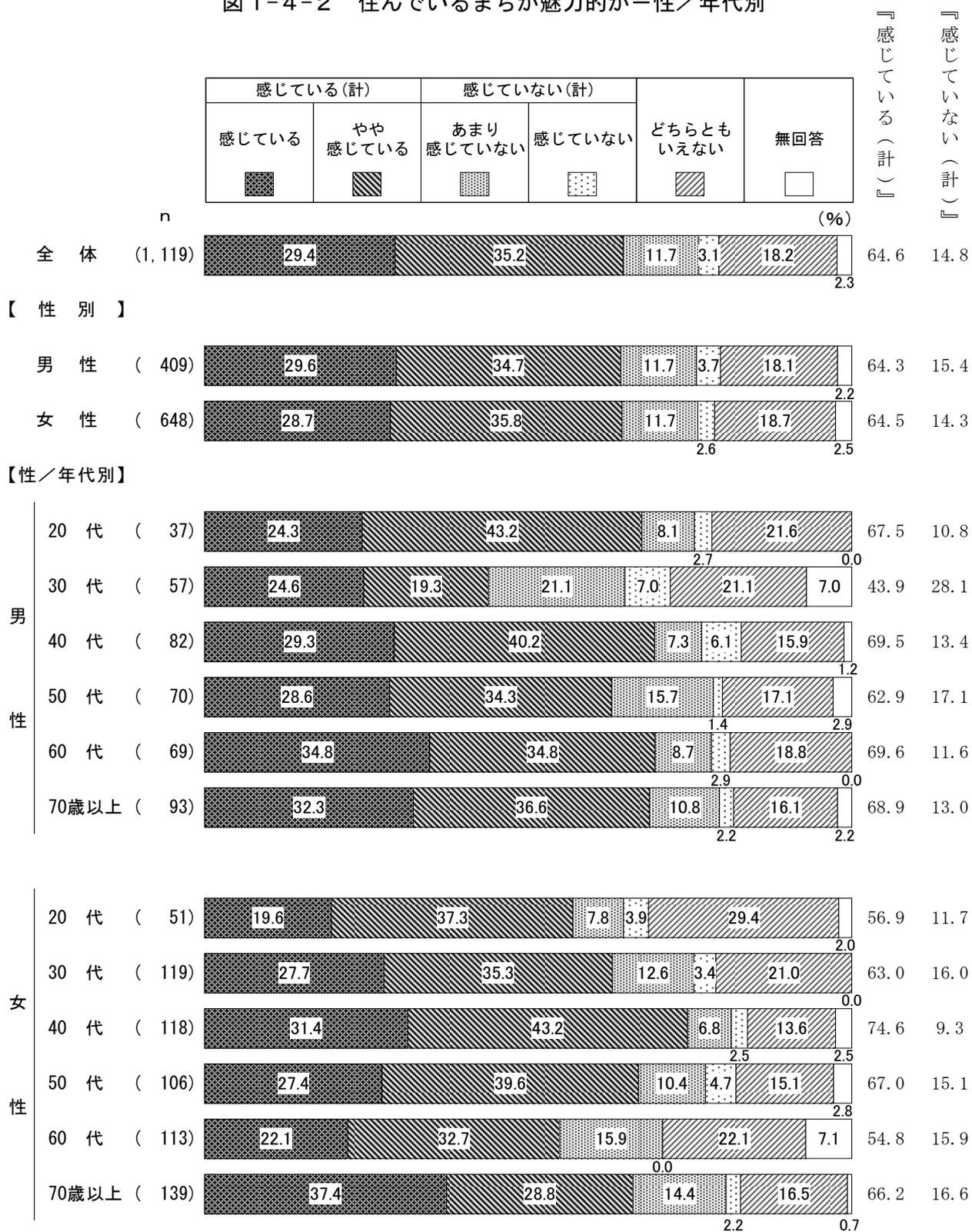
(○は1つだけ)

図1-4-1



住んでいるまちが魅力的であると感じているか聞いたところ、「やや感じている」(35.2%)が3割半ばで最も高く、これに「感じている」(29.4%)を合わせた『感じている(計)』(64.6%)は6割半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」(11.7%)と「感じていない」(3.1%)を合わせた『感じていない(計)』(14.8%)は1割半ばとなっている。(図1-4-1)

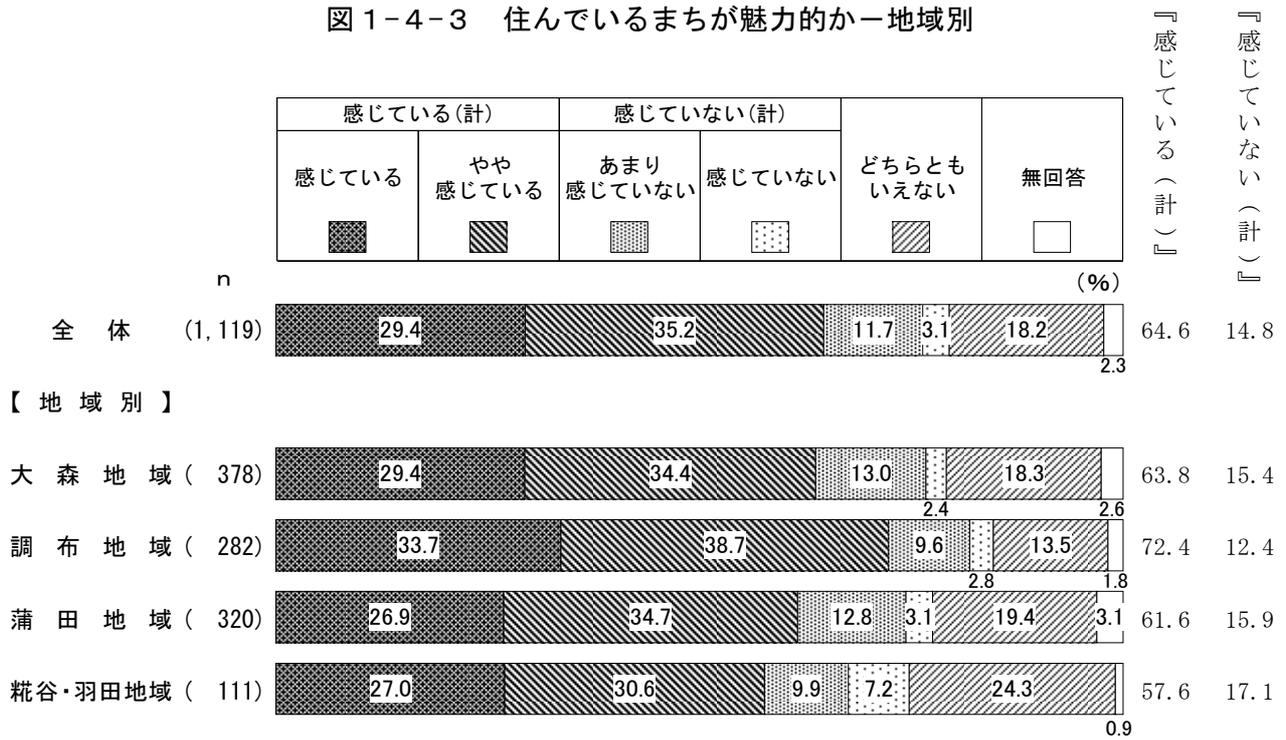
図 1-4-2 住んでいるまちが魅力的かー性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『感じている(計)』は女性40代(74.6%)で7割半ばと高くなっている。一方、『感じていない(計)』は男性30代(28.1%)で3割近くと高くなっている。(図1-4-2)

図 1-4-3 住んでいるまちが魅力的かー地域別



地域別で見ると、『感じている(計)』は調布地域(72.4%)で7割を超え高くなっている。一方、『感じていない(計)』は糀谷・羽田地域(17.1%)で2割近くと高くなっている。(図1-4-3)